

(常磐地区まちづくり検討会)
第4回ワーキンググループ会議
(HuLabo③)：情緒ある温泉街づくりWG
要旨

■ 日 時

令和4年5月20日(金) 19:10~20:10

■ 場 所

常磐公民館 第1会議室

■ 会議の流れ

1 開会

2 挨拶(都市計画課)

3 議事

○ 情緒ある温泉街づくりの実現に向けた施策案の整理について

(1)方針4「温泉街の滞留拠点の形成」に関する施策案

(2)方針5「歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備」に関する施策案

・別紙「説明資料」に基づき、事務局がこれまでの検討経過および施策案について説明し、その後、意見交換を実施。

4 その他

・今後の進め方について(第2回まちづくり検討会、市民説明会の実施など)

5 閉会



■ 意見交換の概要(要旨) ○：関係団体委員 ⇒：事務局・行政委員

○ 滞留拠点では集客の核となるような大規模な温泉のモニュメントを整備していかねば、民間のコンテンツを集客できないのではないのでしょうか。草津温泉であれば、湯畑がそうであるように、湯本温泉(温泉観光地)ならではのインスタ映えするようなモニュメント、空間の整備を行政で行い、民間が集客のコンテンツを付加していくべきと考えます。

⇒ 具体的にどんなモニュメントを整備していくのか考えたときに、専門家の意見や事例等を調べないと難しいと考えています。ただし、核となる場所にしていくという考え方については参考にさせていただきたいです。また、整備を行う主体については、行政が空間整備を全て担うと決めるのではなく、民間の活力の中でできる可能性も探っていく必要があるものと考えています。

○ 社会実験を行うために合意形成が必要との話ですが、社会実験は試験的に行うものなので、合意形成にあまり時間をかけない方がいいのではないのでしょうか。社会実験の結果を踏まえた整備内容を地域住民等に対し説明を行い、理解してもらいながら合意形成を得る方が事業として進みやすいのではないかと思います

⇒ 社会実験を行うための準備等もあるので、多少の時間については了承いただきたいです。また、すべての方に合意を得るのは難しいと考えていますが、しっかり周知をして実施していきたいです。

○ 交流拠点や駅前広場の配置を検討するにあたり、駅前広場の交通(公共交通を含めて)についても社会実験が必要であると考えます。(例えば、広場にする予定の道路を通行止めにするとか・・・)

⇒ 社会実験については、地域と行政で協議会等をつくりながら社会実験を実施する場所や方法等を検討していきたいと考えています。

○ 魅力ある景観というのは、綺麗なものがすべてではないと考えています。どうしても綺麗な景観を作ろうとすると、どこかの景観と同じものになってしまいます。街が時間をかけて作ってきた個性的なものを生かす景観づくりもやっていきたいです。(例えば、タイの電柱電線がたくさんある景観とか・・・)

⇒ 魅力ある景観については、いろいろな意見があると思いますが、専門家を交えながら地域と行政で勉強していきたいと考えています。また、今年度、景観や道路に関する概略設計を行う予定であるため、どのような整備の方向性が良いのか検討していきます。

○ 歩きたくなる街並み空間について、電柱地中化や舗装の高質化をしたところで絶対歩きたくならないです。それよりかは、歩きたくなるようなコンテンツの検討や社会実験の中で人の流れをどのように滞留拠点に向けるかが重要だと考えます。説明資料の P16 ページのイメージ図のように歩道空間にテラス席を設けることができるお店が今現在何店舗あるのでしょうか。これこそ絵に描いたような餅で、将来このような空間になりますと言ってもならないと思います。なので、地域住民と情報の共有をしながらソフトに対する整備の検討が必要です。また、電柱地中化や舗装の高質化ありきで話を進めるのは危険と考えるので、一方通行の社会実験のやり方（一方通行だけではなく整備方法の実験も含めて）について、早急に計画を立てて、その結果を踏まえて、整備方法を検討していくべきです。社会実験は絶対失敗しても構わないので、何回も失敗をしてトライ&エラーを行いながら検討していくことが大事だと考えます。

⇒ 電柱地中化や舗装の高質化については施策案として提示しているため、ありきの考えではありません。また、道路空間のハード整備については、整備を行ったところで歩きたくなる空間になるかといったらそう言うわけではなく、空間づくりを助ける役割と考えています。沿道のコンテンツについては、ないわけではないと思いますのでアンカーとなるポイントを検討し、社会実験の中でわかりやすい演出をしていくことが重要と考えており、今後、地域住民からの合意形成を得るにあたり、行政として周知や説明を行っていくこととなりますが、地域が主体的に検討していきたいという雰囲気づくりを常磐地区の団体の皆様をお願いしたいです。

○ 三函吹谷線は車を運転していても、歩道を歩いても危険な場面があるので、道路整備にあたっては、危険性の排除又は改善を検討（地域住民との対話を含めて）していただきたいです。

○ 一方通行については、地区の合意を得るのは大変だと思います。地域住民の意見を聞きながら丁寧に進めないと失敗すると思います。

⇒ 一方通行の実現に向けては、地域住民の理解が重要だと思っています。ただ、一方通行のありきの事業ではないので、社会実験等を進めながら地域の住民に対し、丁寧に説明・周知を図っていきたいです。

○ 事業エリアには含まれていないのかもしれませんが、吹谷団地の跡地利活用についても検討する必要があるのではなんでしょうか。個人的には泊食分離の旅館のお客さんをターゲットにした取り組みができるのではないかと考えています。

⇒ 吹谷団地の跡地については、現在は砂利を敷いている状態であり、暫定的な利用については臨時駐車場を想定しています。ただし、天王崎団地の跡地でじょうばん街工房が実施予定をしている暫定利用と合わせて、ケータリングカーを置いたりする等の

検討はできるのではないかと考えます。また、今後については、常磐支所敷地で検討している滞留拠点と一体的な整備ができるかどうかを検討していきます。

- 滞留拠点について、有事の際は地域支援の拠点になるように整備すべきではないでしょうか。
- ⇒ 駅前には若干の浸水想定区域となっているため、滞留拠点に水防倉庫を設置できるかどうかの検討を行っていくことになるものと考えています。
- 石畳の舗装について、車いす、ベビーカー、キャスター付きスーツケースにとっては非常に大変なので絶対やらない方がよいと考えます。
- HuLabo③ではモビリティの検討が含まれていませんが、常磐地区の1万数千人の方が駅前や滞留拠点のエリアに気軽に訪れることができるのでしょうか。
- ⇒ 市では地域公共交通計画を策定中であり、拠点間（観光地を含む市内の主要な場所）を結んでいく視点と域内交通を充実させる視点でニーズに合った交通体系を検討しています。高齢化が進む中で、自家用車に頼りすぎない社会を目指して計画していきたいと考えています。また、常磐地区については、交通結節点にもなるので長期的な視点で、市街地再生整備推進事業の中で公共交通の体系を検討していきたいです。